

十四、少年及兒童保護事件

臺灣各地方法院 105 年少年及兒童保護事件終結 46,677 件，較 104 年減少 8.27%，其中少年保護事件 45,595 件、兒童保護事件 1,082 件，分別較 104 年減少 8.15%、12.88%。

105 年受保護處分人數計 9,623 人，較 104 年減少 10.87%，以保護管束並命勞動服務減少最多，較上年減少 20.94%。就保護處分情形觀之，以保護管束 4,057 人最多，占保護處分總人數之 42.16%，訓誡並予假日生活輔導 2,546 人(占 26.46%)次之，訓誡 1,619 人(占 16.82%)第三，保護管束並命勞動服務 653 人(占 6.79%)第四。

105 年少年及兒童保護事件之保護原因，前四項依序為自制力不足(占 47.18%)、交友不慎(占 14.05%)、管教不當(占 6.44%)、缺乏法律常識(占 6.31%)，其餘如性衝動所占比率在 4.19% 左右。而觸犯刑罰法令行為者，其家庭經濟狀況屬勉足維持生活及低收入戶者約六成八，教育程度則以高中(職)程度(含畢業及肄業)為多。

表 2.11 臺灣各地方法院少年及兒童保護事件終結件數及保護處分情形

單位：件；人；%

年別	終 結 件 數			保 護 處 分 情 形 (人)						
	總計	少年保護事件	兒童保護事件	總計	訓誡	訓誡並予 假日生活 輔 導	保護 管束	保護管束 並命勞動 服 務	安置 輔導	感化 教育
96 年	39 611	38 565	1 046	9 431	1 266	3 213	3 671	662	148	471
97 年	42 947	41 915	1 032	10 256	1 347	3 435	4 025	729	141	579
98 年	44 056	42 930	1 126	10 332	1 495	3 367	3 996	703	168	603
99 年	43 216	42 097	1 119	10 721	1 726	3 400	4 201	628	190	576
100 年	50 745	49 637	1 108	12 950	2 225	4 114	4 945	756	151	759
101 年	56 720	55 288	1 432	14 125	2 432	4 393	5 436	902	149	813
102 年	59 270	57 813	1 457	13 917	2 344	4 161	5 432	1 011	160	809
103 年	52 003	50 491	1 512	11 674	2 039	3 396	4 457	928	192	662
104 年	50 883	49 641	1 242	10 797	1 799	2 889	4 445	826	154	684
105 年	46 677	45 595	1 082	9 623	1 619	2 546	4 057	653	137	611
105 年較 上年增 減(%)	-8.27	-8.15	-12.88	-10.87	-10.01	-11.87	-8.73	-20.94	-11.04	-10.67